

明治大学・アルバイトの労働実態に関するアンケート調査結果

(2008年7月実施)

明治大学労働教育メディア研究センター

当センターでは、2008年7月、経営学部、商学部のゼミナール担当教員と学生の皆さんの協力を得て、学生アルバイトの労働実態調査を行った。本調査は、今後の実態調査や学生向けの労働教育を進めていくための予備的な調査として実施した。以下、アンケートの結果の一部を簡潔に報告する。なお、アンケート対象者の選定にあたって、バイアスを避ける抽出法を取っていないし、全数調査でもないので、経営学部、商学部の学生全体のアルバイト実態を明らかにしたものではない。

1. アンケートの対象

- ・回収アンケート数 148
- ・性別 男性 107 女性 40 不明 1
- ・学部 商学部 59 経営学部 89
- ・学年 2年生 14 3年生 86 4年生 47 不明 1

2. アルバイトの実態

- ・アルバイト経験 あり 143 なし 5
- ・アルバイト業種（長期勤続の仕事）
 - 飲食業 71（うちファースト・フードやコーヒーショップが 15）
 - 販売 34（うちスーパー・コンビニが 14）
 - 教育（予備校・塾・家庭教師など） 15
 - その他 23
- ・長期勤続の仕事の実態（143名が長期勤続のアルバイトとして回答した数字の平均）
 - 平均勤続月数 20.1 カ月（高校時代からの継続勤務の月数を含む）
 - 週平均 3.13 日、1 日 5.87 時間（推定週労働時間：約 18 時間）
 - 平均時給 1,027 円

*想定した以上に同一の仕事での勤続年数が長く、かつ長時間働いている。

3. 働き続ける上での重要な条件は

- ・人間関係（店長・上司・社員、アルバイト同士） 39
- ・調整のきく勤務時間 24
- ・仕事の内容（興味・おもしろさ・やりがい・つまらないか） 23
- ・賃金水準 20
- ・労働強度（らくか、きついか） 13
- ・立地条件 12

*飲食店や販売の仕事が多く、職場の人間関係がうまくいくかどうか、アルバイト学生が職場に定着するかどうかの重要なポイントである。学生にとっては、学業やサークル活動、その他の遊びなど優先すべき事があるので、労働時間の調整が可能か否かも重要な要素である。仕事のおもしろさ、賃金水準がそれに続く。

4. 働き続ける上での問題と労働問題：

- ・ 上司／正社員などとの人間関係・パワハラ 68
- ・ 接客トラブル 24
- ・ 仕事がきつい・あわない 21
- ・ 賃金関係（サービス残業・賃金未払い・昇給がない） 13
- ・ 採用時の提示労働条件の不履行や仕事が違う 3
- ・ 解雇・退職強要 2
- ・ 有給休暇がない 1
- ・ 休憩なし 1
- ・ セクハラ 1
- ・ 労災（労災保険が適用された） 1
- ・ 職業病（洗剤使用による健康被害） 1

*問題として意識化されるものは、店長、上司、社員などとの人間関係、接客上のトラブルが圧倒的に多数である。労働問題は十分に意識化されていないのか、記述されている数は多くない。サービス残業や賃金未払いなど賃金問題が多い。

5. 問題解決

*問題が発生したときの対応は、諦めたり、退職によって解決する事例が多く、問題解決に向けた具体的対応はほとんどない。具体的に店長などに申し入れた事例は5件、従業員でまとめて店長を糾弾した事例が1件あった。

*相談相手は母親、友人、職場の同僚・先輩が多く、教員に相談した者は1人だけであった。

まとめ

以上の調査結果を概観すると、想定した以上に同じアルバイト先に長期間勤続し、週3日、1日6時間近く勤務している。ほとんどの学生が常用化され、アルバイトが学生生活に組み込まれている。これは新しい意味での「勤労」学生といえないだろうか。他方、職場に定着していくポイントは、第一に「職場の人間関係の良さ」であり、「労働時間の調整ができるか」「仕事内容」「賃金」「労働強度」「立地条件」が続く。主要な問題は職場の人間関係や客とのトラブルであって、労働条件をめぐる問題は、あまり顕在化していない。この点は学生自身に労働問題が意識化されていない結果ではないか。問題が発生しても退職によって解決する事例が多く、自ら行動して問題を解決しようとした事例は少ない。